

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503718		
法人名	医療法人社団ひがしの会		
事業所名	グループホーム えんじゅ久松台(1F)		
所在地	福山市久松台1丁目4-8		
自己評価作成日	平成25年8月30日	評価結果市町村受理日	平成25年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201
訪問調査日	平成25年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気、個々がゆったりと生活して頂けるよう支援しています。  
 また、地域との交流にも力を入れ、今年度は、近隣の方にボランティアで、尺八やハーモニカを演奏して下さる方もでき、みんなで歌を唄う時間も増えました。  
 運動不足にならないように、ほぼ毎日簡単な体操を行ったり、季節感が味わえるよう、四季折々に外出レクなど力を入れて日々少しでも楽しく過ごせるよう支援するようしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市中心部の高台に位置しリビングからは季節の移り変わりを感じる事ができる。室内は障害となる物もなく清潔に保たれている。利用者が地域の中でその人らしく過ごせるよう地域との関わりを充実する様努められ、行事にも声をかけてもらう等日々交流が深まっている。ボランティアや小学生の社会見学等の受け入れも積極的にされ、閉鎖的にならない様取り組まれている。法人全体の研修も多く職員のスキルアップに繋がられ利用者一人ひとりに合わせた細やかな計画で対応し家族の信頼も得られている。日々機能維持と楽しみごとのある支援で一日を明るく楽しく過ごしてもらえよう、また、医療面に於いても訪問看護との連携を取りながら安心、安全な生活の確保に努めている。栄養面に於いてもバランスと食をそその配慮で楽しいものとなる様心掛け、あらゆる面に於いて常に利用者本位のケアで心温まる雰囲気の事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

1階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に認識して頂ける施設を目指して、初年度の目標設定にもいれ活動している。理念・目標の共有は玄関・事務所に貼り付けし、MTでも確認しあう。また、理念・目標に添って個人目標を作成、実践に向けて取り組んでいる。	理念を基に年度初めに個人目標を作り、上半期、下半期で個々に評価し、次の目標に繋げている。日々理念、目標を意識し実践に繋げている。また、ミーティングでも周知徹底に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、公民館でのサークル活動の見学・小・中学校の学習の為の見学やチャレンジウィーク等の受け入れを行って、地域の子供たちとの交流が出来るよう近隣に声掛けを行っている。	小学生の社会科見学やボランティア等の受け入れや地域ふれあい喫茶への参加、又公民館の清掃活動への協力等積極的に参加し交流を深める様努め、声かけをしてもらえるようになり、とんど祭りには御汁粉などを頂いたり、敬老会にも参加し関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に少しずつ認識されて、近隣者の待機者が増えてきている。出来るだけ、ご家族が近い範囲で無理なく訪問して頂けるよう学区内の方々の役に立てたらと考えている。また、入居される方も近隣のお客様が利用してくれるようになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月毎に開催出来るように計画を立てているが、お客様の体調管理が不十分な時期に開催を中止させて頂いた開催月もあった。年度初めや年度末には施設目標の成果や反省・今後の取り組み計画など報告させて頂いている。	家族をはじめ各分野の方の参加の下、法人、事業所等の目標についての成果と反省点、家族アンケートの集計結果、ケアプラン作成の流れ等多岐にわたり報告、説明をし、意見等得ている。防災対策についても説明し協力の依頼もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括主催の勉強会や報告会での開催時には、参加するようにしている。地域居宅宅での懇親会に参加させて頂いた。	困難事例が生じた場合は相談にいきアドバイスや情報等得ている。社協や医師会、包括、居宅等主催の勉強会には積極的に参加し協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、拘束にあたる行為について話し合いの場をもった。鍵などは勤務者が70ア-に1人になる、休憩時間・夜間など安全の為に施錠している。	法人内の研修に参加し、ミーティングで職員に周知し、その都度話し合いもしている。契約書にも掲げ、家族からの依頼が生じてても十分に説明をし納得してもらう様努め、鍵やセンサーも使用せず見守りと工夫で支援されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を実施した。色々な場面での想定を例にあげ、職員同士で考えた。あざ、等の事故発生時にも虐待を意識してMTなどで話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者なし。特になにもしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、署名・捺印をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置。運営会議等が出た意見やカンファレンス等のご家族等の意見などは、その都度カンファレンスやMTで話し合いを持つようにしている。	運営推進会議の中や定期的に電話等でも聞き取る様にされ、意見や要望はミーティングで話し合い共有している。内容によっては運営推進会議に議題とする事もある。家族アンケートも実施し結果報告もされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	MTにて、要望や意見を聞いて出来るだけその場で解決できるように努めている。	各ユニットミーティングや全体ミーティング等で聞き取るようにし、申し送りノートにも記載し検討し対応すると共に反映もさせている。個々の目標を評価する際個人面談の中でも聞く機会を持つようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、上期・下期にて目標進捗状況の確認・面談を行い、個別での意見もだしてもらうようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での研修企画委員の勉強会の実施と自施設での勉強会も今年度より年間計画を立て実行中です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワーク会議に参加したり、地域で行われる勉強会にも参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問などで情報収集を行い、現場に持ちかえり入所判定会議を職員と行いお客様が安心して生活出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問などで情報収集を行い、現場に持ちかえり入所判定会議を職員と行いご家族が安心して頂けるよう出来るよう努めている。入居前より電話にて情報のやり取りを頻繁に行い不安にさせないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問時、ご本人・ご家族・ケアマネと話し合いサービス利用が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しなど、簡単な日常生活に関わる作業は、出来る範囲内で行うようにしてもらっている。お客様、それぞれが出来る事の役割をもって生活をしてもらえよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡・面会時など、些細なことでも報告を行うようにしている。時には間に入り話題を提供を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人などの施設での面会はあるが、馴染みの場所に出掛けるなどの外出はご家族にお任せさせて頂いている。	近隣のからの利用者が多く散歩時馴染みの方と出会う機会もある。家族や友人、知人等の訪問も多く気持ち良く過ごせてもらえる雰囲気づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時間を決めて体操・カラオケなどをしたり。外出レクなどは1F・2F いつも合同で行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族に「いつでも情報提供させてもらう。」と声掛けを行い、関係性が他持てるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けや日常会話で聞き取るよう努めているが意志疎通が取れない場合もあり、本当にお客様の希望に沿って支援させてもらっているか分からない場合もある。	日々の会話や表情、また、一対一になった時などに把握され、生活記録に記載し、ケアプランに反映させ希望に添える様支援に努めている。外出や食事面、帰宅願望等の希望が聞かれる。困難な場合は家族や生活歴から把握し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時や面会時聴き取りをするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスやMTなどで、個々の現状・課題を出し合うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員がそれぞれ、担当のお客様を持ち、本人様・ご家族の意見を聞きとるようにしている。意見を出して頂いた内容については介護計画に反映させて頂いている。現状が変わる場合は計画期間前でもカンファを開催し現状に合わせてプラン作成を行うようしている。	毎月モニタリングを行い、利用者担当が家族等の要望を聞き取り、その内容や、OTの意見も取り入れ、カンファレンスで話し合い、個々に合わせた計画を作成している。家族にも承諾を得、職員にも周知している。定期的に見直しもされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・施設用の日誌・申し送りノートの活用で情報の共有を行っている。プランの見直しについてはヒアリや事故等も反映させて作成するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他施設のDSに訪問させて頂き、時間を過ごさせて頂いたりして、自施設でのサービスがマンネリしないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館で実施されている、カラオケのサークル活動にお客様と参加させて頂き、地域の方々とカラオケを唄ってもらっている。外出をする為、お客様は良い気分転換になっているのではないかと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については入居時確認をしている。主治医の往診・必要に応じて訪問歯科・皮膚科など往診して頂いている。	月2回協力医の往診、訪問看護より週1回の訪問があり医療連携は取れている。口腔ケアも週1回ある。他科の訪問診療もあり適切に行っている。かかりつけ医は基本家族対応となっているが、同行受診も柔軟に支援し結果等も連絡合っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様の状態の変化はその都度、相談・報告をしている。場合によっては訪問して頂き指示を出してもらってりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、アセスメント等の情報提供やこまめに面会に行きご家族や看護師からも現状の情報を聴き取れるよう努めている。検査結果などご家族に同席させて頂けるようお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為以外の家族からの要望があれば受け入れ可能となっている。要望があればそれぞれの関係者も交え話し合いを行えるよう調整を行うようにしている。	重度化した場合は、適切な医療が受けれる施設や医療機関への受け入れ等の協力支援とその時の状況により事業所として出来る事は支援していく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度6月、全体の8割の職員が「普通救命講習」を受けた。定期的な訓練は講師の方々にも行うよう指導されたので調整していきたいと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練実施している。近隣の協力が得られるように行事などの開催時には声掛けを行い施設の間取りなど把握して頂けるよう説明するようにしている。	訓練も定期的に行い、通報、消火等消防署と連携を取りアドバイスや指導等してもらっている。町内の防災訓練にも参加し安否確認の方法なども助言を得ている。備蓄や発電機器の準備もしている。行事や会議などで協力の依頼もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや、MTと勉強会など開催して話合うようにしている。	資料を基に勉強会をしたり、ミーティングで話し合ったり、職員同士で注意し合い、その人の尊厳を大切にされた対応に心掛けている。個人情報にも配慮し、退職者にも守秘義務の徹底を周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が声掛けを行うも、なかなか思いや希望がくみ取れない場合が多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースになっている事が多いと思うが、出来るだけゆったりと過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用したり、馴染みの美容院にご家族と行かれるお客様もおられる。服装も着替えのときに選んで頂けるような声掛けを行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き等、出来ることはして頂くようにしている。下膳などはご自分で頂くよう声掛けをおこなっている。	其の人の力を引き出すような場面作りをされ、できる事を職員と共にしてもらっている。食材や量、味付けなどにこだわられた料理で彩りも良く食べやすく工夫され食を促す声かけで、殆どの方が完食され楽しみの時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や嗜好についてなど、MTなどでも話題にあげて検討している。水分量も確保出来るよう、コップを大きめのものに変えたりして、常に検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の口腔を行っている。うがいの出来るお客様については、感染症予防も考え、おやつや食事の度にうがいをして頂くようにしている。口腔に異常が感じられる時は、訪問歯科などに相談往診して頂いたりして口でのトラブルを予防している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを付け日中を中心にトイレ誘導を行い、出来るだけ失敗せずに、自然な排泄が出来るよう努めている。	パターンや表情で把握し、生活習慣を活かしたトイレでの排泄が出来る様支援している。居室にトイレがありゆっくりと落ちついて排泄する事が出来き、プライバシーも守られ、見守りにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	簡単な体操をしたり、食べ物についても出来るだけ便秘が防げるようなものを提供するようにしている。また、個々の状態で排便がなかった場合は訪問看護の看護師に相談下剤の服薬の指示をもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務時間で決まりがちになっているが、入浴拒否が続く場合は、夕方から夜にかけて入浴を進める場合もある。	一人ひとりに合わせた対応で週2～3回は入浴できる様支援している。仲良し同士で入られたり、夕方から夜にかけて入浴される事もあり柔軟に支援し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の把握が出来るように、交代で薬の仕分けを行うようにしている。変更時には申し送りやノートを使用し情報の共有が出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント等を利用し聴き取りする。日々の会話の中でも聞き出せそうな話を提供しながら情報収集するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望があれば、その都度 外出 出来るよう調整を行っている。希望が聞き出せない方については外出レク等で外に出られるよう支援している。	菊花展やコスモス畑に出向いたり、嫁いらず観音など、遠出の外出等にも出かけている。また、同法人の事業所に訪問する事もある。ふれあい喫茶や公民館サークル等にも参加し外出支援に努め気分転換を図っている。テラスが広く天気の良い日は日光浴をしたり外気に触れる支援にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度持っておられる方は居られるが、買い物に出かけたいとの希望は殆どなく、持っているだけで安心して思える。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望のお客様がおられるが、ご家族との関係から電話することが出来ないことがあり、ごまかすこともある。ご家族からの電話はご本人様に繋げてあげるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が持てるような飾りつけを心がけ作成している。共有の場がごちゃごちゃし過ぎないよう整理整頓を行い、広々とみんなが使用出来るようにしている。	リビングから市中が一望でき、清潔に保たれ、整理整頓に心掛けられ危険箇所もなく、外出や行事等の写真が飾られ思い出のひとコマとなっている。嫌な匂いもなく居心地の良い空間づくりとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々が違和感を抱かないよう席の検討を行っている。霧因気が悪くなりそうな場合はその場で席替えを行ってトラブルにならないよう配慮するようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や生活が始まってからも、随時、馴染みの深い備品の持ち込みについてご家族に声掛けを行っている。	馴染みの家具やソファ、寝具等持ち込まれ、今までの生活環境のギャップがないように工夫されている。室内も清潔で心地良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全でないと判断した場合は注意させて頂くこともあるが、出来るだけ利用者本意で生活が送れるよう支援するようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503718		
法人名	医療法人社団ひがしの会		
事業所名	グループホーム えんじゅ久松台(2F)		
所在地	福山市久松台1丁目4-8		
自己評価作成日	平成25年8月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気、個々がゆったりと生活して頂けるよう支援しています。  
 また、地域との交流にも力を入れ、今年度は、近隣の方にボランティアで、尺八やハーモニカを演奏して下さる方もでき、みんなで歌を唄う時間も増えました。  
 運動不足にならないように、ほぼ毎日簡単な体操を行ったり、季節感が味わえるよう、四季折々に外出レクなど力を入れて日々少しでも楽しく過ごせるよう支援するようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

2階ユニット

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に認識して頂ける施設を目指して、初年度の目標設定にもいれ活動している。理念・目標の共有は玄関・事務所に貼り付けし、MTでも確認しあう。また、理念・目標に添って個人目標を作成、実践に向けて取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、公民館でのサークル活動の見学・小・中学校の学習の為の見学やチャレンジウィーク等の受け入れを行って、地域の子供たちとの交流が出来るよう近隣に声掛けを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に少しずつ認識されて、近隣者の待機者が増えてきている。出来るだけ、ご家族が近い範囲で無理なく訪問して頂けるよう学区内の方々の役に立てたらと考えている。また、入居される方も近隣のお客様が利用してくれるようになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月毎に開催出来るように計画を立てているが、お客様の体調管理が不十分な時期に開催を中止させて頂いた開催月もあった。年度初めや年度末には施設目標の成果や反省・今後の取り組み計画など報告させて頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括主催の勉強会や報告会での開催時には、参加するようにしている。地域居宅宅での懇親会に参加させて頂いた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、拘束にあたる行為について話し合いの場をもった。鍵などは勤者が70ア-に1人になる、休憩時間・夜間など安全の為に施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を実施した。色々な場面での想定を例にあげ、職員同士で考えた。あざ、等の事故発生時にも虐待を意識してMTなどで話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者なし。特になにもしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、署名・捺印をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置。運営会議等が出た意見やカンファレンス等のご家族等の意見などは、その都度 カンファレンスやMTで話し合いを持つようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	MTにて、要望や意見を聞いて出来るだけその場で解決できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、上期・下期にて目標進捗状況の確認・面談を行い、個別での意見もだしてもらっているようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での研修企画委員の勉強会の実施と自施設での勉強会も今年度より年間計画を立て実行中です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワーク会議に参加したり、地域で行われる勉強会にも参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問などで情報収集を行い、現場に持ちかえり入所判定会議を職員と行いお客様が安心して生活出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問などで情報収集を行い、現場に持ちかえり入所判定会議を職員と行いご家族が安心して頂けるよう出来るよう努めている。入居前より電話にて情報のやり取りを頻繁に行い不安にさせないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問時、ご本人・ご家族・ケアマネと話し合いサービス利用が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しなど、簡単な日常生活に関わる作業は、出来る範囲内で行うようにもっている。お客様、それぞれが出来る事の役割をもって生活をしてもらえるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡・面会時など、些細なことでも報告を行うようにしている。時には間に入り話題を提供を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人などの施設での面会はあるが、馴染みの場所に出掛けるなどの外出はご家族にお任せさせて頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時間を決めて体操・カラオケなどをしたり。外出レクなどは1F・2F いつも合同で行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族に「いつでも情報提供させてもらう。」と声掛けを行い、関係性が他持てるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けや日常会話で聞き取るよう努めているが意志疎通が取れない場合もあり、本当にお客様の希望に沿って支援させてもらっているか分からない場合もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時や面会時聴き取りをするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスやMTなどで、個々の現状・課題を出し合うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員がそれぞれ、担当のお客様を持ち、本人様・ご家族の意見を聞きとるようにしている。意見を出して頂いた内容については介護計画に反映させて頂いている。現状が変わる場合は計画期間前でもカンファを開催し現状に合わせてプラン作成を行うようしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・施設用の日誌・申し送りノートの活用で情報の共有を行っている。プランの見直しについてはヒアリや事故等も反映させて作成するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他施設のDSに訪問させて頂き、時間を過ごさせて頂いたりして、自施設でのサービスがマンネリしないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館で実施されている、カラオケのサークル活動にお客様と参加させて頂き、地域の方々とカラオケを唄わせてもらっている。外出をする為、お客様は良い気分転換になっているのではないかと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については入居時確認をしている。主治医の往診・必要に応じて訪問歯科・皮膚科など往診して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様の状態の変化はその都度、相談・報告をしている。場合によっては訪問して頂き指示を出してもらってりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、アセスメント等の情報提供やこまめに面会に行きご家族や看護師からも現状の情報を聴き取れるよう努めている。検査結果などご家族に同席させて頂けるようお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為以外の家族からの要望があれば受け入れ可能となっている。要望があればそれぞれの関係者も交え話し合いを行えるよう調整を行うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度6月、全体の8割の職員が「普通救命講習」を受けた。定期的な訓練は講師の方々にも行うよう指導されたので調整していきたいと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練実施している。近隣の協力が得られるよう行事などの開催時には声掛けを行い施設の間取りなど把握して頂けるよう説明するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや、MTと勉強会など開催して話合うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が声掛けを行うも、なかなか思いや希望がくみ取れない場合が多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースになっている事が多いと思うが、出来るだけゆったりと過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用したり、馴染みの美容院にご家族と行かれるお客様もおられる。服装も着替えのときに選んで頂けるような声掛けを行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き等、出来ることはして頂くようにしている。下膳などはご自分でして頂くよう声掛けをおこなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や嗜好についてなど、MTなどでも話題にあげて検討している。水分量も確保出来るよう、コップを大きめのものに変えたりして、常に検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の口腔を行っている。うがいの出来るお客様については、感染症予防も考え、おやつや食事の度にうがいをして頂くようにしている。口腔に異常が感じられる時は、訪問歯科などに相談往診して頂いたりして口でのトラブルを予防している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを付け日中を中心にトイレ誘導を行い、出来るだけ失敗せずに、自然な排泄が出来るよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	簡単な体操をしたり、食べ物についても出来るだけ便秘が防げるようなものを提供するようになっている。また、個々の状態で排便がなかった場合は訪問看護の看護師に相談下剤の服薬の指示をもらうようになっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務時間で決まりがちになっているが、入浴拒否が続く場合は、夕方から夜にかけて入浴を進める場合もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の把握が出来るように、交代で薬の仕分けを行うようになっている。変更時には申し送りやノートを使用し情報の共有が出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント等を利用し聴き取りする。日々の会話の中でも聞き出せそうな話を提供しながら情報収集するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	要望があれば、その都度 外出 出来るよう調整を行っている。希望が聞き出せない方については外出レク等で外に出られるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度持っておられる方は居られるが、買い物に出かけたいとの希望は殆どなく、持っているだけで安心して思える。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望のお客様がおられるが、ご家族との関係から電話することが出来ないことがあり、ごまかすこともある。ご家族からの電話はご本人様に繋げてあげるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が持てるような飾りつけを心がけ作成している。共有の場がごちゃごちゃし過ぎないよう整理整頓を行い、広々とみんなが使用出来るようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々が違和感を抱かないよう席の検討を行っている。霧因気が悪くなりそうな場合はその場で席替えを行ってトラブルにならないよう配慮するようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や生活が始まってからも、随時、馴染みの深い備品の持ち込みについてご家族に声掛けを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全でないと判断した場合は注意させて頂くこともあるが、出来るだけ利用者本意で生活が送れるよう支援するようにしている。		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1-4-(3)	運営推進会議での内容・議題の検討が必要参加者が増えない。	参加者を増やし、議題についてもサービスの向上に活かせる内容を計画的に実施する。	定期的実施していくため、年間計画を立てる。開催時次回の予定も伝え参加者が予定して頂けるようにし、参加者を増やす。	H26.1.1～H26.12.31
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。